

いわて平泉米だより

令和7年2月号



良食味米生産は土づくりから

○雪解け後、地温が上昇し始めたタイミングで早めの
春耕起を実施しましょう

春耕起は主に作土深の確保や代かき作業に向けた圃場の
碎土・均平を向上させるのが目的ですが、早期に行うこと
によって、稲わらやひこばえ等の分解を促進することがで
きます。耕起作業が遅くなると、田植え後に稲わらが分解
される過程でガスが発生し、根腐れといった被害にもつな
がります。



ひこばえの多い圃場は、ガスの発生に注意

○田んぼの水を抜き、酸素を供給しましょう

水を抜くことで、微生物が活発化して分解が促進されま
す。圃場が湿田で、耕起作業が難しい場合には、無理に作
業せず明渠による排水作業を心掛けましょう。

○ケイ酸質資材（ケイカル等）を施用しましょう

高温などの異常気象に強い稲体作りに効果的で、食味の
向上にもつながります。

以上の3点をポイントに土づくりに努めましょう